

41. 滋賀県における衣生活の実態

第4報 都市と農村との幼児着衣状態の比較

滋賀県立短大 堀 有子

林 豊子

1. 滋賀県内各地の各階層にわたり着衣の実態を把握して滋賀県における衣生活の向上と合理化に資するため調査を行っているが、既に農村幼児及び都市青年女子についてはその調査結果を発表した。今回は都市幼児について調査を行ったので、農村の場合と比較しながらその成績を報告する。

2. 昭和34年9月より1ヵ年間毎月1回、滋賀県彦根市立保育園児延871名の室内における衣服重量を測定し、更に着衣状態を着用枚数、着衣材料、服種等について調べた。

3. 月別平均衣服重量は最小が男女児とも7月、最大は男児3月、女児1月で各月とも男児より女児の方が軽量であった。この傾向は概して農村幼児に比べて大差なかった。

衣服重の対体重比は夏期男児1.4%~1.5%、女児1.1%~1.3%、冬期男児5.8%~6.7%、女児5.3~6.0%で各月とも男児の方が女児より大であった。また農村幼児に比し冬期に男児の方が大で女児は年間大差がない様である。

着用枚数は夏期3~4枚、冬期7~8枚で農村に比しやや多い。上衣下衣別、内衣外衣別の着用枚数の割合は農村幼児に比し著しい差異は認められなかった。

着衣材料は男女共木綿が最も多く次いで毛と化繊が同程度で、農村に比し化繊使用の程度が比較的大であった。